様式第２号　　令和元年 11 月 15 日

豊明市議会議長　殿

行政等視察報告書

議員名　服部龍一

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年　月　日	視察先	視察項目及び成果等
令和元年 10 月 29 日	兵庫県姫路市 (姫路城管理事務所)	「AR を活用した 姫路城の新たな演出」について
令和元年 10 月 30 日	高知県高知市 (高知 ぢばさんセンター他)	「第１４回全国市議会議長会 研究フォーラム」 【１日目】 第１部　基調講演 「現代政治のマトリクス ーリベラル保守という可能性」 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授 中島岳志氏 第２部　パネルディスカッション 「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター　坪井ゆづる パネリスト　高部 正男 他３名 第３部　意見交換会
令和元年 10 月 31 日		【２日目】 第４部　課題討議 「議会活性化のための船中八策」 コーディネーター　坪井ゆづる 事例報告者　滝沢一成 他２名 ※別添報告有

（注）別紙添付も可能とします。
（注）本報告書は５年間公開します。

豊明市議事課
元年11.15
分類　・　・　30・10・5・1
可・否・一部否・一時否
第749号受付

会派清風行政視察報告書

服部　龍一

期　間　　令和元年１０月２９日（火）～１０月３１日（木）
視察先　　兵庫県姫路市　ＡＲを活用した姫路城の新たな演出について
　　高知県高知市　全国市議会議長研究フォーラムへの参加

兵庫県姫路市　ＡＲを活用した姫路城の新たな演出について

■視察の趣旨

本市には、戦国時代の日本歴史上有名な戦いである「桶狭間の戦い」の古戦場伝説地があり、この観光資源を十分に生かす方法として現在、姫路城で行われている、ＡＲを活用した新たな演出に着目した。この件に関して、姫路市に依頼し、現状を聞き取りするとともに視察を行った。

■ＡＲによる演出とは

「姫路城大発見アプリ」は、世界遺産姫路城の様々な魅力を発見する事が出来るアプリケーションである。
ＡＲ（拡張現実）やＶＲ（フルＣＧ）による復元ＣＧによって、現存しない建物が再現され、在りし日の姿を見る事が出来る。また、城内の仕組みを説明した再現映像も収録している。
具体的な操作方法は、手持ちのスマートフォンのＧＰＳ機能をオンにし、カメラへのアクセスを許可するとバーコードリーダーのように、ＡＲのアイコンを正面にかざし読み込むことが出来る。

■利用状況

現在の利用状況としては、年間の来場者１５８万人に対して、約１０万人であり、約５％ほどである。

≪所感≫

ＶＲの事業に関しては、近畿ツーリストが行っており、ＡＲに関しては、姫路市が行っている。この事業に係る費用として、２～３０００万円が係っている。利用方法が少し複雑であり利用者数も、少ないように思える。本市での利用は、少しハードルが高いように感じた。

高知県高知市　全国市議会議長会研究フォーラムについて

■基調講演　「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」
講師　中島　岳志　（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

■講演内容について
●政治のマトリクス
①　配分をめぐる軸.・・Ｙ軸
→セーフティーネット強化（リスクの社会化）VS 自己責任(リスクの個人化)
②　価値をめぐる軸・・Ｘ軸
→リベラル VS バターナル

リスク（Ｙ軸）とはお金でありそれに対するＸ軸は価値観である。すなわち、税金は高いがサービスが充実していた、田中角栄内閣時代に対し、現在の安倍内閣は、税金は安いが、サービスは少ないと言える。
希望の党は、この方向性の違う者同士が集まった為失敗したと考えられる。

●ラディカルデモクラシーとポピュリズム

物語の設定の重要性として、立憲民主党フィーバー

「枝野立て」→「立憲民主党はあなたです」

しかし、新たな物語の欠如により立憲民主党は埋没する事となった。

それに代わり、闘技デモクラシーとして国民の支持を得て、れいわ新撰組フィーバーが起こる事となった。

●保守とは何か？

人間及び人間社会において、完成は不可能であり、常に「改革」は必要である。「改革」とは、過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整である。

■パネルディスカッション　「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター

坪井ゆづる（朝日新聞論説委員）

パネリスト

高部　正男（市町村職員中央研修所学長）

横田　響子（株式会社コラボラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授）

古川　康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋　　剛（高知市議会議長）

■　パネルディスカッションの内容

議会は地方政治、自治の主役である。

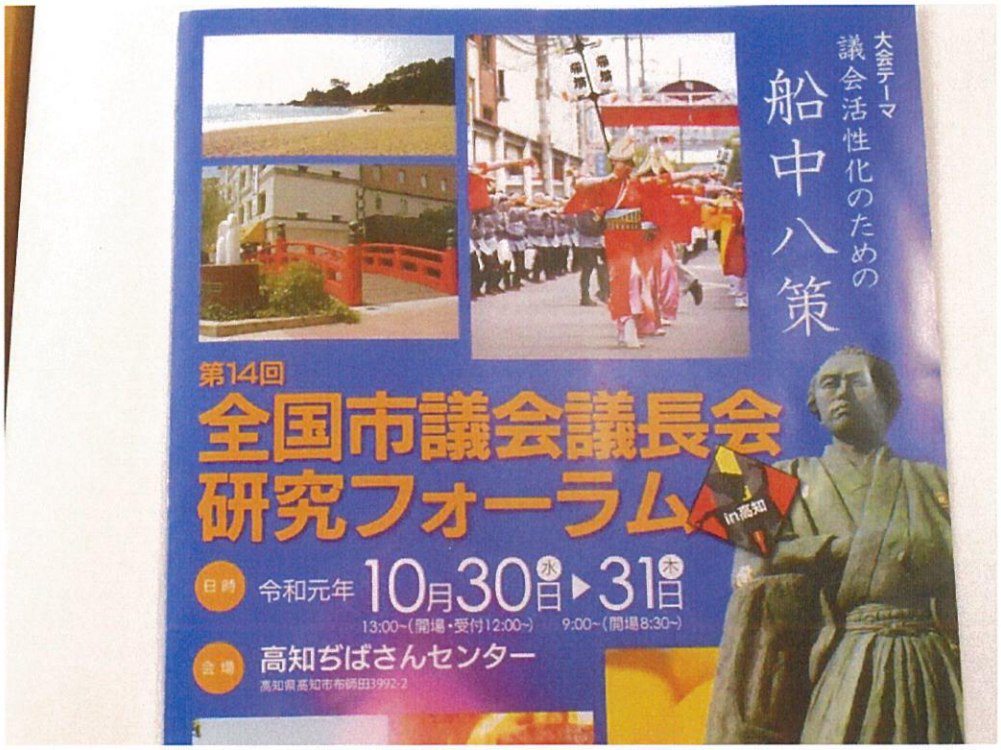
たとえ首長に比べて、スポットライトを浴びる機会は少なくても、予算や事業の賛否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。

２０００年の地方分権一括法の施行から、全国各地で議会改革が叫ばれ、議会基本条例をはじめ、幾多の成果を残してきた。住民との距離を縮め、明らかに進化を遂げた議会もある。

いま、世論は実に厳しい。全国津々浦々で、選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるのも議会に向けられた冷ややかな視線の表れに見える。

当初から問題として指摘してきたのが「3ない議会」だ。

1. 首長提案議案を一つも、否決も修正もしていない。
2. 議員提案の政策条例を一つも制定してない。
3. 議員個人の賛否を公開していない。

この３項目を重視するのは、あるべき議会像を確実に実践してゆくには、３問共に「ＮＯと答える必要がある、つまり「３ある議会」になるべきだと考える。
公開されている議場や委員会審議の場で、事業の内容や優先順位を論じ合い、議会の意思を可視化してゆくことが必要ではないか。

≪所感≫
今回の研究フォーラムのテーマとして挙げられるのは、次世代を見据えて、以下に議会に住民を引き寄せられるか、如何に議会に興味を持ってもらえるかであり、サラリーマンでも議員を目指す事が出来る環境整備、また、議員報酬だけで生活が出来る環境づくり等であった。色々な面での改革が必要であると感じた。